

飾り棚・壁付け棚（ウォールシェルフ）の入力方法

文書管理番号：1170-03

Q. 質問

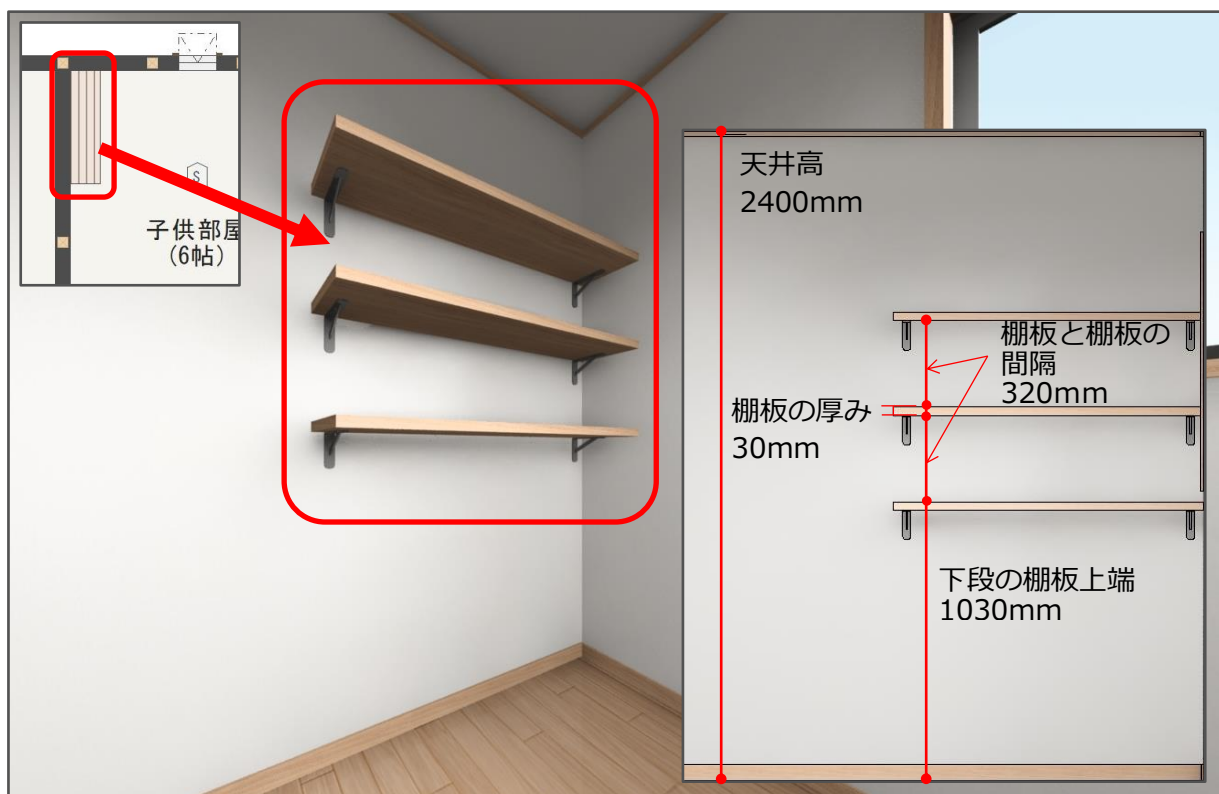
部屋の壁に、飾り棚・壁付け棚（ウォールシェルフ）を作成したい。
可動棚を表現したい。

A. 回答

部屋の壁に取り付ける飾り棚・壁付け棚（ウォールシェルフ）は、プラン図で内観部品の棚板を利用して表現します。

また、棚柱や棚受け金具などの部品を利用することで、可動棚の表現も可能です。

ここでは、3段の壁付け棚を配置する方法を説明します。



操作手順

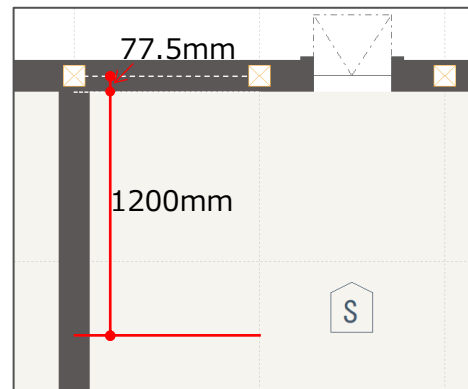
● 棚板の配置




ここでは、1200mm 幅の棚板を配置するため、あらかじめ補助線を入力します。
補助線のオフセット値は、「壁芯からの壁厚 + 棚板の幅」とし、壁芯から配置します。

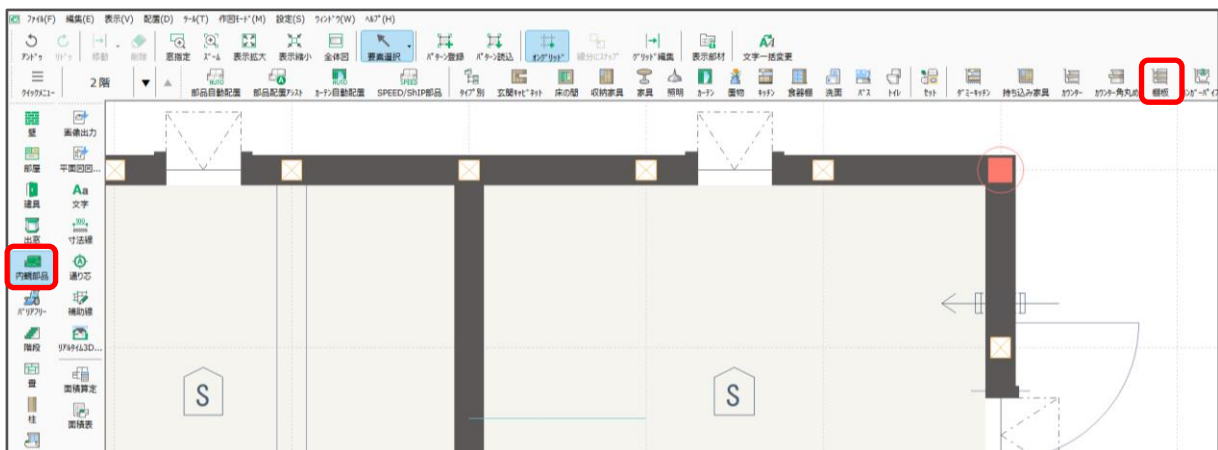
補助線の詳しい入力手順については、こちらをご覧ください。

[\[1036\] 間くずれの間取りの入力方法（補助線・グリッド編集の利用）](#)

ここでは、壁芯からの壁厚が 77.5mm、棚板の幅が 1200mm
とし、補助線をオフセット値「1277.5」mm で配置した状態
から説明します。



①  (プラン図)で、 (内観部品)の (棚板)をクリック



* 棚板の設定画面が表示されます。

② 種類や高さ等を設定し、「OK」をクリック

* ここでは、以下のように設定します。

「矩形」を選択

種類 棚板 3段

厚み 30mm

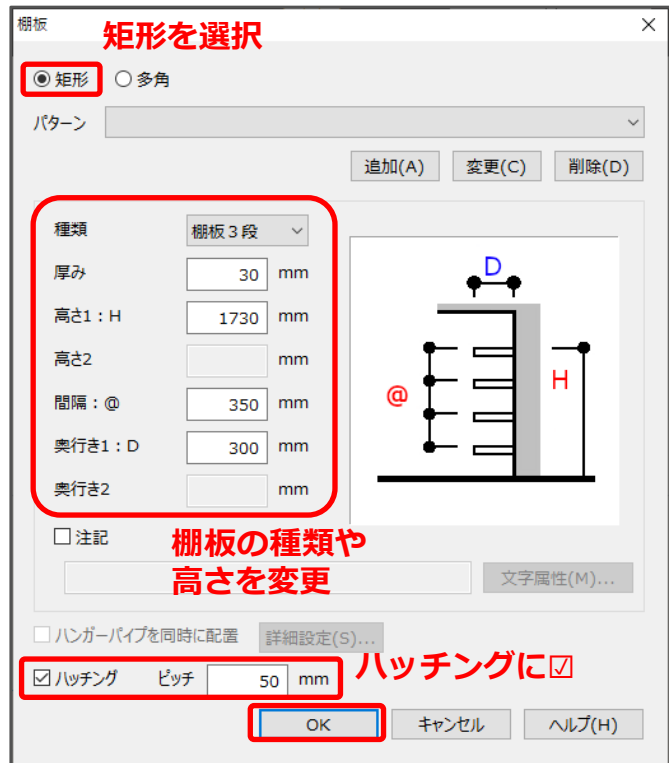
高さ1:H 1730mm

間隔:@ 350mm

奥行き1:D 300mm

ハッチングにチェック

ピッチ 50mm



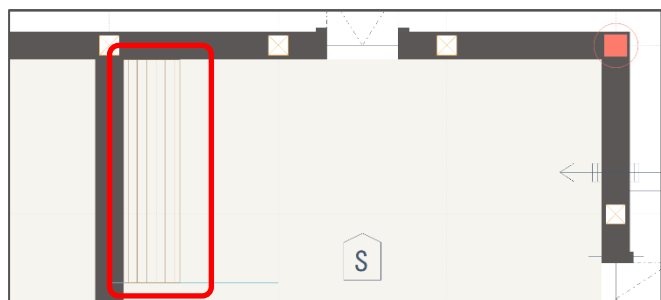
③  (隅配置)になっていることを確認し、棚板の起点となる壁の隅でクリック


④ [Ctrl]キーを押しながら、終点となる補助線上でクリック



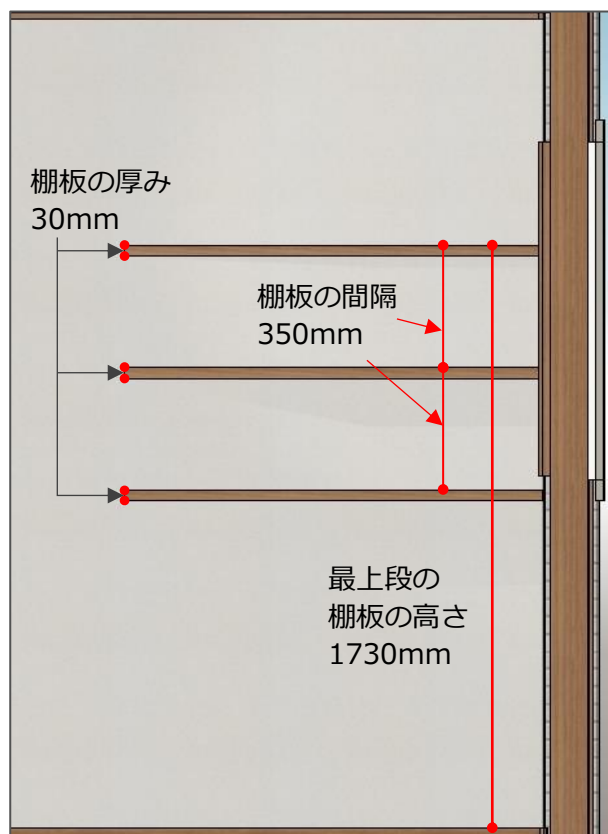
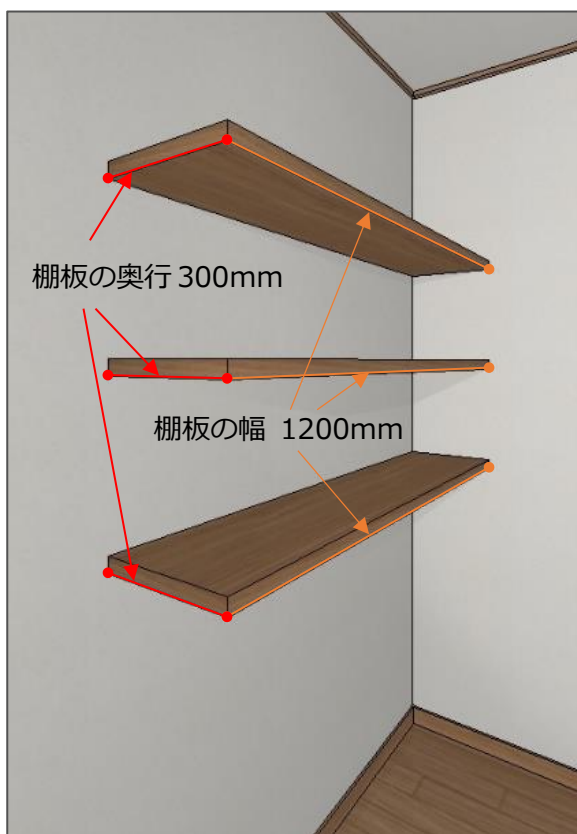
⑤ 室内側の方向をクリック

* 棚板が配置されます。



⑥  (3D パース)で確認

* 棚板 3 段が設定した高さで配置されます。



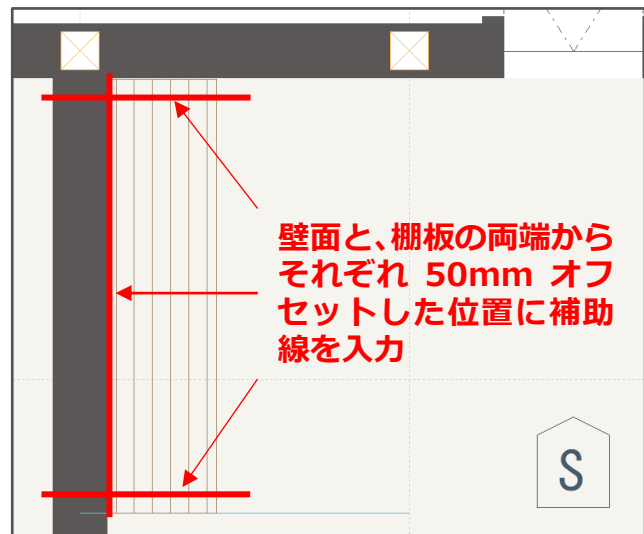
● 棚受け金具の配置

ここでは、棚受け金具部品を棚板の端から左右 50mm 内側に配置します。

部品を配置するための補助線は、あらかじめ入力した状態で説明します。

補助線の詳しい入力手順については、こちらをご覧ください。

[\[1036\] 間くずれの間取りの入力方法（補助線・グリッド編集の利用）](#)

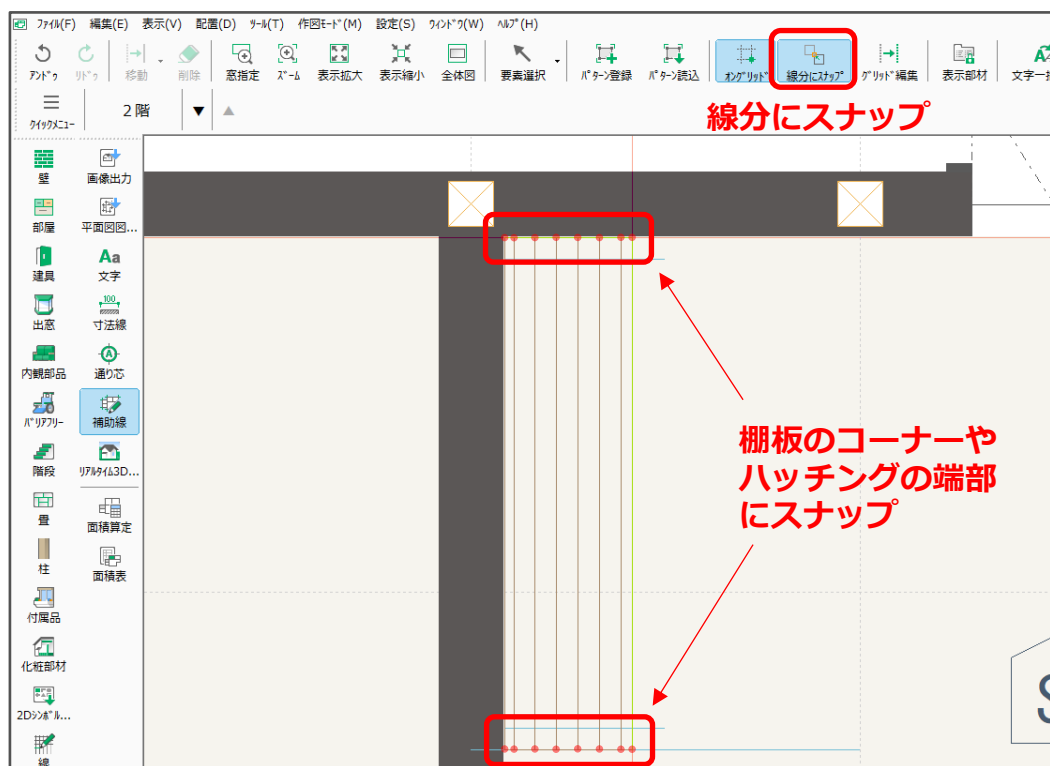




【参考】

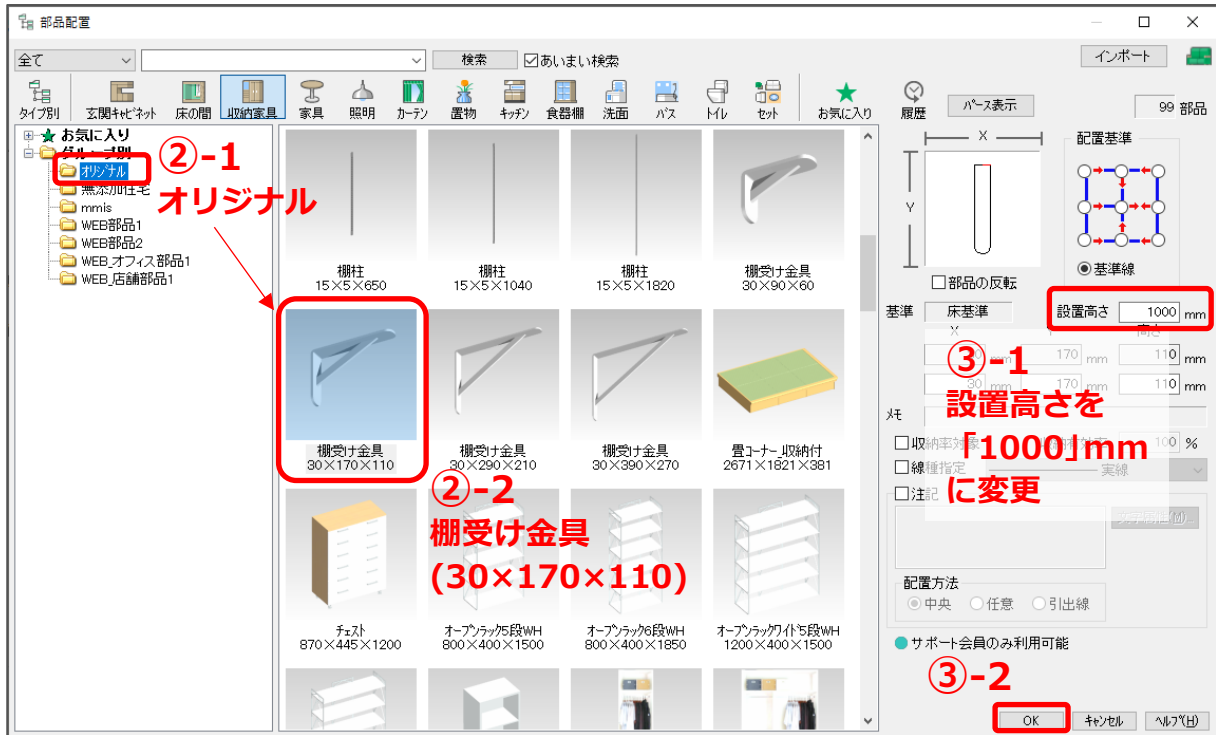
棚板の端から左右 50mm 内側に補助線を配置する場合は、 (線分にスナップ) を ON にすることで、補助線の入力時に棚板の端にスナップします。


また、壁面の補助線も、棚板の線に沿って配置できます。

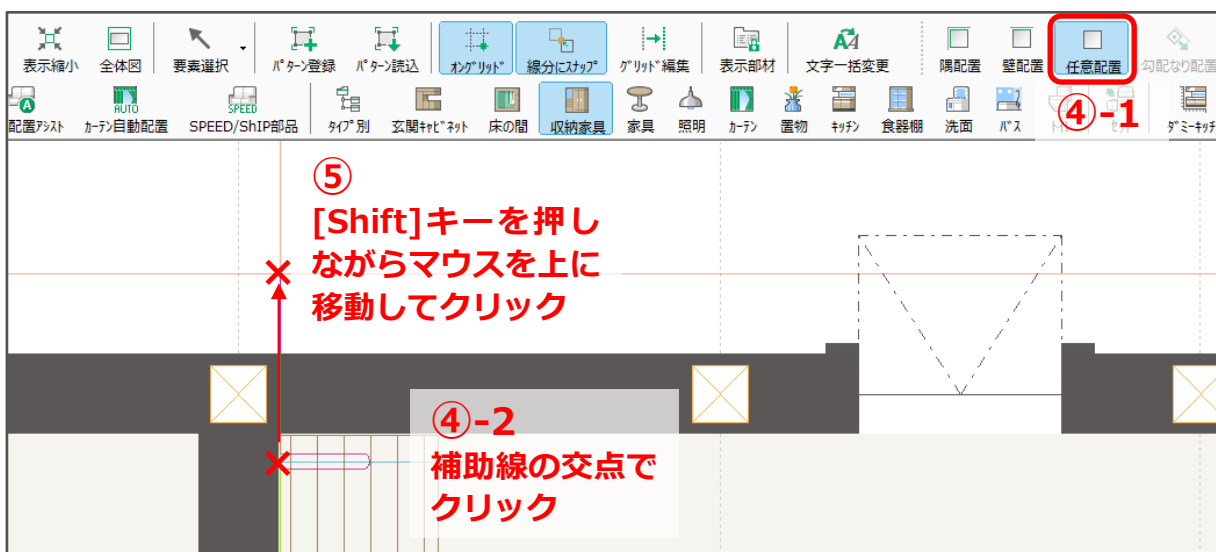
配置した補助線は、交点にスナップできるように、少し長めに配置しておきます。



- ①  (内観部品)の  (収納家具)をクリック
* 部品配置の画面が表示されます。
- ② 「オリジナル」グループにある「棚受け金具 (30×170×110)」をクリック
- ③ 設置高さを「1000」mmに変更し、「OK」をクリック



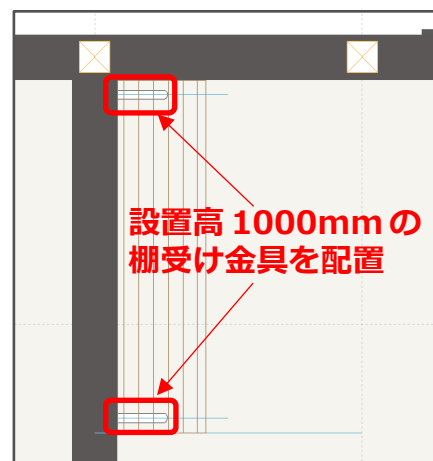
- ④  (任意配置)をクリックし、補助線の交点でクリック
- ⑤ [Shift]キーを押しながらマウスを上を移動させ、部品の向きを確認してクリック



* 棚受け金具が配置されます。

⑥ 続けて、反対側の棚受け金具も配置

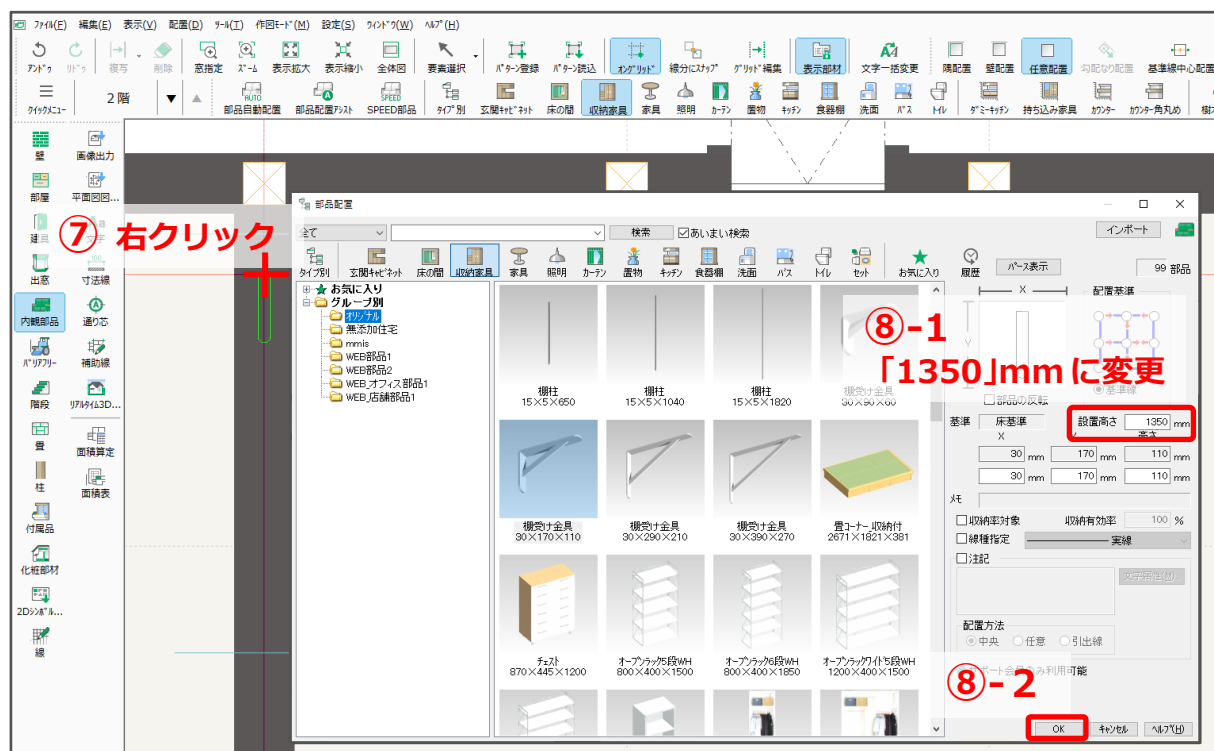
- * 棚板の両側 2 か所に、棚受け金具を配置します。



⑦ 部品配置後、右クリック

- * 部品配置の画面は P.6 操作③で設定した内容で表示されます。

⑧ 設置高さを「1350」mmに変更し、「OK」をクリック

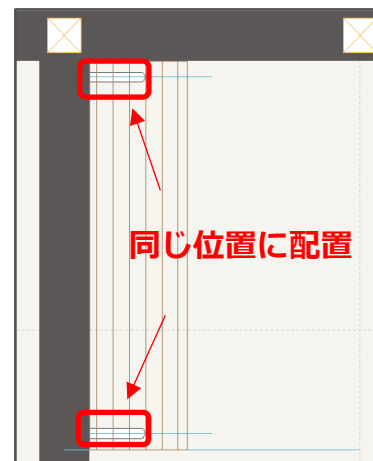



⑨ P.6～7 操作④～⑥の手順で、先に配置した棚受け金具と同じ 2 か所に配置

- * 設置高「1350」mm の棚受け金具が、先に配置した設置高「1000」mm の金具と同じ位置に配置されます。

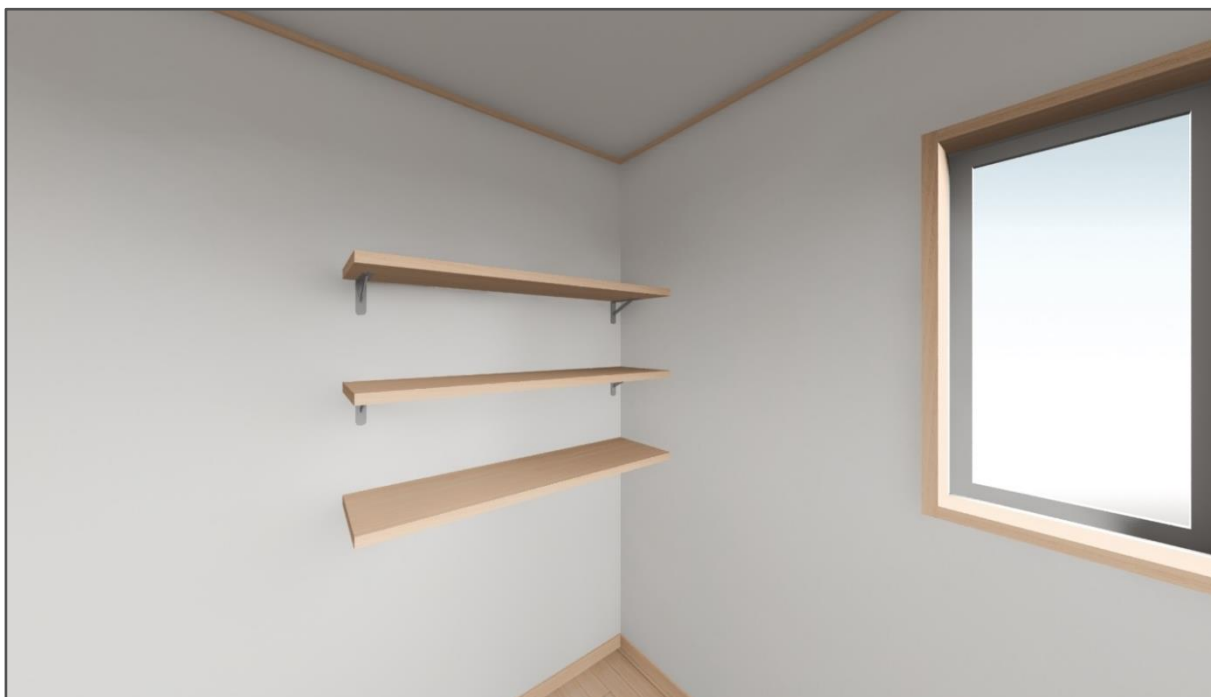
⑩ 操作⑦～⑨の手順で、同様に設置高さを「1700」mmに変更して棚受け金具を配置

- * 設置高「1000」、「1350」、「1700」mm の棚受け金具が、それぞれ配置されます。






⑪  (3D パース)で確認

* 棚受け金具部品が、棚板の下端に合うように配置されます。



【参考】

 (内観部品)の  (収納家具)にある「棚柱」を配置することで、可動棚としての表現も可能です。

また、内観部品の  (置物)にあるボックスや本を配置すると、3D パースでの表現もよりリアルになります。

棚板は、矩計図や断面図・展開図に表示されますが、ボックスや本、金物などの内観部品は、矩計図や断面図・展開図に表示されません。

部品も表示させたい場合は、図面出力対象として設定する必要があります。

詳しくはこちらをご覧ください。

[\[1060\] 各種図面（断面・矩計・展開・立面）への部品の表示](#)

